鉄道

三陸沿岸をつなぐ！ 平成26年4月、いよいよ全線運行再開へ

―三陸鉄道株式会社（岩手県宮古市）

復興への思いを乗せて 被災5日後に一部運行再開

岩手県の三陸海岸を走る第三セクターの鉄道会社「三陸鉄道」。北リアス線、南リアス線とも多くの駅舎や線路が被災し、南リアス線では一部車両も使用不能になるなど津波による被害は甚大でした。

しかし、震災5日後には北リアス線で「災害復興支援列車」として久慈～陸中野田間の運行を運賃無料で再開。地域の重要な交通手段として、また復興への先駆けとして住民を大いに力づけました。短期間で運転再開を決断した背景には、十分な点検・工事要員によって安全を確保した上で動かせる確信が得られたことに加え、地域と住民への思いがありました。

「わずか1日3便でしたが、交通手段としてだけでなく、車両が動く気配や汽笛の音で安心感を得られたと、たくさんの方に感謝の言葉をいただきました。その声が、私たちの復旧活動の原動力になったのです」と代表取締役社長の望月正彦さんは振り返ります。

望月社長（写真右）と冨手部長（写真左）。北リアス線宮古駅にて。

多くの支援・協力を受けながら、できることから着実に実現

平成23年3月中は行政や自衛隊の協力を得ながら瓦礫を撤去し、運転区間を広げるとともに、全ての被害状況の確認を完了。4月には沿線の自治体に向け復旧計画を説明し、県や市も出席する7月の株主総会で復旧方針（全線復旧、三次計画、ルート変更なし）への合意を得ました。また、現場では復旧工事の方法や費用の見積もりなど、並行して準備を進めていきました。そして、11月には第三次補正予算で復旧経費が認められ、さらに独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構の全面支援を受けて本格的な全体復旧工事へと進んでいきました。

そうした地道な活動に対し、次々と支援の手が上がりました。被災レールやグッズなどの販売に始まり、ヘッドマークの広告販売、タレントのチャリティショーや枕木オーナー制度に多くの支援が寄せられ、クウェート国の支援で新しい車両も購入できました。さらにNHKドラマ「あまちゃん」への登場で予想以上に利用客が増えました。旅客サービス部長の冨手淳さんは「ありがたいことに、全てみなさん方からの提案なんです。ご厚意に応えられるよう、できることは全てやろうと思っています」と語ります。

車両前方についているヘッドマークは貴重な広告収入でもある。

売り出された被災レール

全線開通後も新たな取り組みに着手

そして平成26年4月、いよいよ全線開通となります。テレビで見るだけではなく、被災地の実態を実際に目で見て肌で感じて欲しいとの思いから、震災学習列車の運行など誘客事業に力を入れるほか、自治体とともに駅を中心に病院や公共施設を配置するコンパクトシティ構想などにも着手する予定です。震災を経て、地元との絆をより深めた三陸鉄道の新しい取り組みに大きな期待が集まっています。

全線運行再開に伴い、クウェート国の支援で導入するお座敷車両